

学校法人日章学園 宮崎医療福祉専門学校 令和3年度の自己評価に対する学校関係者評価結果

令和4年6月20日実施

3段階評価 A：達成 B：一定の成果あり C：不十分 右の評価はA=3 B=2 C=1で点数化

自己評価(総合)	B (2.6)	学校関係者評価(総合)	B (2.5)
----------	----------------	-------------	----------------

教育の方針		確かな知識・技術を身に付け心豊かで温もりのある医療人の育成するために、高い志と自主・自律の精神の下、協働と協調を基調とした教育を展開する。		
努力目標	自己評価	結果報告	外部評価	学校関係者(外部委員)からの意見・提言
1. 建学の精神をもとに医療福祉に有為な人材の育成を目指した誇り高い校風づくり	B	①毎日の朝礼とホームルームで建学の精神の唱和を行い、建学の精神を確認し、日々の教育の基とした。 ②学園努力目標及び学校と各学科の努力目標を3カ月毎に自己評価し職員会議で共通理解を図り、改善につなげた。 ③毎朝の学科内ミーティングで学生状況を常に確認・共有して、学校・学科の目標に沿う人材育成に努めた。	B	よく取り組まれている。現在の取り組みに加えて、学生1人1人の長所を適切に捉えて、意欲を向上させる取り組みを具体化してほしい。
2. 国家試験等の合格実績向上とそのための学習態度の確立	A	①看護及びPT養成学科においては、1年次から基礎基本の徹底と弱点克服の指導を徹底し、年間指導計画に従い実行した。 ②国家試験合格率100%を目指して取組んだ。看護100%、PT養成学科84.2%の合格率であった。PT養成学科は全国平均(79.6%)を上回ることができたが、今後100%目標達成に向け国試対策を強化していく。	B	看護学科は、国家試験合格率100%と素晴らしい結果でした。理学療法士学科の国家試験合格率は、全国平均を上回っていたが昨年度より低下となり残念である。全員が合格できるように、国家試験対策について、分析を行い、対応を強化する必要がある。不合格者が今年度合格できるようにフォローをしっかりとしてほしい。
3. 定員確保を目指した学生募集の推進	A	①コロナ禍であったが、今年度は計画通りすべてのオープンキャンパスを実施することができ、その結果、参加者の数値目標も前年度の86%から120%に大幅に増え目標を達成した。 ②入試においては、受験者数全体で前年度比19名の減少、入試区分では一般入試受験者数が前年度比19名の減となったが、入学者数は看護学科41名、理学療法士養成学科42名となり、定員充足を達成できた。	A	コロナ禍で学生の協力を得て、Web配信・SNSの活用などにより、オープンキャンパス参加者の増加、2年連続入学者の定員充足率100%以上という数値に表れている。今後、受験者が増加するために、本校の魅力を発信できるように努力する必要がある。
4. 退学生の防止	A	①各学科具体的数値目標を掲げ、数値を意識して活動した。 ②心理診断結果を参考に、教員が科学的裏づけを基に学生個々への丁寧な指導を展開。また毎週初めに運営委員ミーティングを実施して、退学の恐れのある学生を確認し指導のあり方について協議を重ねた。 ③退学者数は6名、前年より3名減となった。	A	心理診断結果を活用し、学生1人1人に丁寧にに関わり、努力目標数値を達成している。しかし、目標を持って入学しているので、全員が卒業することができるように、医療現場職員をメンバーとした学習支援や相談対応など導入して退学を防止してほしい。
5. 個を生かす進路指導の推進	A	①1年次から定期及び随時に個別面談を行い、進路希望を把握し、毎月の学科会で情報を共有し個別指導に役立てた。 ②関連施設による就職ガイダンス、教員による進路相談、3年生による就職試験報告会等を実施した。 ③就職率100%となった。	A	1年次から進路調査及び個別面談などを行い、学生に応じた進路指導の結果として100%就職を継続することができている。また、3年生が下級生に向けて就職試験報告をすることにより、報告者自身が自信を持つことができ就職の心構えが強くなるので継続してほしい。
6. 地域連携強化の推進	B	①コロナの影響により2年連続で学園祭やボランティア活動など地域との交流をする機会が失われ、寂しい1年となった。 ②西都市との間で「災害時における施設等の使用に関する協定」を締結し、西都市指定避難所として受け入れ施設となる。 ③MMC杯のバレーボール大会もコロナの影響で中止。	B	コロナ禍であっても、何か工夫されて、学生の活動の場を広げてほしい。医療福祉施設が、西都市指定避難所として協定されたことは、災害時緊急時に心強い。宮崎県災害福祉支援ネットワークのスキーム構築が活動されているので、災害福祉支援への意識向上に繋がる機会になることを期待する。
7. 経費節減と校納金完納の推進	B	①毎月の職員会議で、電気・水道代の使用量を前年比数値も提示して節減意識化を促進したが、総額で前年比減をとばならなかった。(特に夏場の電気代↑) ②コピー機の使用量を毎月計測記録し、前年度同時期の量と比較しながら、随時職員へ情報提供した。 ③校納金は前期、後期とも完納であった。	B	校納金完納は素晴らしい。努力されていると思うが、経費削減になっていない。現状を分析し、目標値を設定した方がよい。経費節減でゴミ回収費用も検討すると良いと思う。

※「外部評価」は7名の委員の評価平均を四捨五入した結果の評価です。「学校関係者評価(総合)」は名の「外部評価」7項目の平均を四捨五入した結果の評価です。